

茨城県農産物販売推進東京本部情報

令和元年(2019年)7月

1 東京都中央卸売市場(2019年1-6月)の青果物取扱高について

- ① 全体の入荷量は約92万tで、前年並、金額は約2,578億円で前年比7%減となった。
- ② 茨城県産の入荷量は約12万tで、前年並、金額は約274億円で前年比12%減となった。
(金額の内訳は、野菜約217億円、果実約57億円。前年同期比で野菜15%減、果実増減なし、平年同期比で野菜12%減、果実1%増)
金額が【増加】した品目(前年対比)：レタス類(109%)、ピーマン(103%)
金額が【減少】した品目(前年対比)：はくさい(43%)、みず菜(71%)、こまつな(78%)、メロン類(94%)
- ③ 茨城県の青果物入荷量は平年並(シェア13.1%)、取扱金額は同10%減(シェア10.6%)となった。

	市場計 ※2			茨城			他県のシェア(1-6月計)			
	1-6月計	年間計	年間比	1-6月計	年間計	年間比	千葉	北海道	栃木	
数量	H31(2019)	919,876		120,174	←シェア(13.1%)		13.8%	5.4%	3.7%	
	H30	918,374	1,907,279	48.2	120,662	225,946	53.4	13.5%	6.5%	3.8%
	(前年比)	100			100	シェア(13.1%)				
	平年値※	949,964	1,978,757	48.0	120,577	228,350	52.8			
	(平年比)	97			100	シェア(12.7%)				
金額	H31(2019)	257,787		27,365	←シェア(10.6%)		8.7%	2.8%	7.6%	
	H30	278,128	568,808	48.9	31,171	56,745	54.9	9.3%	2.7%	7.0%
	(前年比)	93			88	シェア(11.2%)				
	平年値※	276,233	563,980	49.0	30,327	57,101	53.1			
	(平年比)	93			90	シェア(11.0%)				

(単位：t, 百万円, %)

※1：平年値は平成26～30年の5か年平均。
※2：市場計は東京都中央卸売市場における総計を表す。

《参考》
平成30年実績
(1～12月計)

茨城県：金額シェア(10.0%)、数量シェア(11.8%)
千葉県：金額シェア(7.8%)、数量シェア(11.0%)
北海道：金額シェア(6.1%)、数量シェア(10.7%)
栃木県：金額シェア(5.8%)、数量シェア(3.4%)

2 東京都中央卸売市場(令和元年6月単月)の茨城県産青果物主要品目の取扱高

()内は前年対比

野菜類の入荷量は約18.7千トン(98%)、単価は239円(101%)、金額は約45億円(99%)

果実類の入荷量は約4.6千トン(91%)、単価は355円(113%)、金額は約16億円(102%)

※平年比(全国比)は、市場全体の数量、単価と、市場全体の平成26～30年同月の5か年平均値との比率

	品目	数量(t)			単価(円/kg)				金額(千円)			
		前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比	平年比	平年比(全国比)	前年比%	平年比			
野菜	ねぎ	2,363	92%	96%	97%	404	109%	97%	97%	954,522	100%	93%
	ピーマン	2,034	103%	99%	99%	373	101%	114%	114%	758,379	105%	113%
	キャベツ類	4,661	100%	113%	108%	69	93%	90%	95%	323,858	94%	102%
	とうもろこし	1,046	91%	100%	92%	258	99%	103%	105%	269,734	89%	103%
	野菜総計	18,749	98%	97%	97%	239	101%	97%	95%	4,475,642	99%	94%
果実	メロン類	2,922	89%	79%	83%	413	113%	118%	112%	1,207,315	101%	93%
	果実総計	4,594	91%	81%	86%	355	113%	118%	110%	1,629,542	102%	95%

(野菜)

5月までの少雨から曇雨天が続く天候となり、果菜類を中心に数量が減少し相場が底上げされたものの、重量野菜や葉物野菜の単価が振るわず、野菜全体としては単価はほぼ前年並、平年を下回る状況であった。
本県産とうもろこしは肥大が鈍り出荷量・単価が伸びなかった。ピーマンは、前年並の数量であったが、後継産地の東北で出荷量が伸びず、平年に比べるとやや単価高となった。

(果実)

本県産メロンは、出荷ピークは6月上旬となったものの前年よりやや小玉となり、また、その時期に量販の売込なども重なったことから不足感が出て、単価高で推移した。競合となるおうとう、もも類等の出荷量も前年に比べ非常に少なかったため、果実全体で単価高傾向で推移した。

※各数値は、東京都中央卸売市場実績を基に算出